

# 西洋医学教育の父「ポンペ」(日本滞在1857-1862)



古い医学書の断片的な治療法しかなかつた学生たちに対し、ポンペは初めて解剖学、化学、物理、病理など医学の系統的な講義と実技を施しました。また、公開牛痘種痘や長崎でのコレラ流行時の積極的な治療などを行い、多くのいのちを救いました。

1861年、日本初の西洋式教育病院「小島養生所」を立ち上げ、身分や貧富の差別のない平等な診療を施し、西洋医学教育のひな型を日本に植え付けました。

ここから、松本良順(初代陸軍軍医総監)をはじめ、明治初期の日本医療をリードする人材が多数輩出されました。



ポンペ像 長崎大学附属図書館 所蔵



ポンペと松本良順

長崎大学附属図書館 所蔵

